

4 職員研修

(1) 大学図書館職員短期研修（東京会場）について

- ① 主 催：東京大学附属図書館
- ② 日 時：平成29年10月17日（火）～20日（金）
- ③ 会 場：国立情報学研究所

(2) 研修報告

平成29年度大学図書館職員短期研修報告

秋田公立美術大学 池田 知剛

【研修会の講義一覧】

- ① 「大学図書館の現状と課題」
高橋 努（東京大学附属図書館事務部長）
- ② 「大学図書館職員のスキルアップ法」
井上 昌彦（関西学院大学図書館運営課）
- ③ 「学習/学修支援と大学図書館の役割」
呑海 沙織（筑波大学図書館メディア系・知的コミュニティ基盤研究センター教授）
- ④ 「学術情報リテラシーの教育の現状」
坂本 拓（京都大学附属図書館利用支援課）
- ⑤ 「効果的なグループ討論法」
岩田 好司（久留米大学外国語教育研究所 所長）
- ⑥ 「大学図書館における目録実務と NACSIS-CAT の現状及び今後の構想」
村上 遥（東京外国語大学総務企画部学術情報課目録係 主任）
- ⑦ 「電子コンテンツ導入・利用の現状と課題」
森嶋 桃子（慶應義塾大学メディアセンター本部電子情報環境担当）
- ⑧ 「学術コミュニケーションの動向」
片岡 朋子（お茶の水女子大学図書・情報基盤担当）
- ⑨ 「海外研修経験から見えた大学図書館（1）」
寺島 久美子（一橋大学附属図書館学術情報課利用者サービス係）
- ⑩ 「海外研修経験から見えた大学図書館（2）」
涌井 絵未奈（中央大学図書館事務部情報資料課）
- ⑪ 「国立情報学研究所の学術コンテンツ事業紹介」
小野 亘（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長）

【大学図書館の現状と課題】

以下、特に印象に残った東京大学附属図書館事務部長の高橋氏による講義内容について簡単にではあるが紹介したい。

＜大学図書館のミッション、目標・計画＞

大学の中で図書館の存在感を高めるためには、図書館が大学の目標の実現、ビジョン推進のために、どれだけ貢献しているかということ、目に見える形示さなければならぬが、そのためには大学の目標・計画に図書館、学術情報基盤に関わる事項をしっかりと書き込んでおくことが必要である。また、その前提として大学における中期目標期間/年度の業務実績報告書に図書館の成果を記述することも重要である。

＜「一般職員であっても図書館業務ができるのではないか」という意見に対する反論＞

仕事を教わることでできる専門職集団としての図書館職員が周囲に存在しているからこそ、このことが可能である。

他業種の業務との間で定期的に人事異動のある一般職員や 任期の定められた非正規職員だけでは、その専門性を十分に 育んでいくことが極めて困難であり、専門的業務の知見と経験を次世代の職員に引き継ぐことは難しい。

図書館業務を全面的に一般職員に委ねてしまうことは、たとえ短期的には対応できたとしても、10年後、20年後には、学術情報の面で大学の研究・教育を支える力が著しく低下してしまうことを危惧するべきである。

外部委託の導入にも、現状のコスト削減の観点だけでなく、委託結果の評価や将来的な専門技能・経験の継承などの総合的・長期的な観点からの検討が必須であるし、実際、図書館業務の外部委託（全面委託）を実施している館数の推移を見ても、2014年をピークに減少傾向にある。

＜電子ジャーナルの問題＞

ジャーナル価格の継続的な上昇は、長年にわたって形成されてきた世界的に共通の問題。短期的にこれを解決する方策は見当たらない。ジャーナルの購読コストに膨大な予算を支出し続けるのは適当でない。

- ・大学はそれぞれの状況に応じたジャーナルの契約形態を見直すべき
- ・学術論文及び関連データのオープン化を推進する
- ・研究者が有力ジャーナルへの論文掲載数を競い、それを国や大学が評価する姿勢を改める意識改革が必要
- ・日本発ジャーナルの国際発信力の強化
- ・海外出版社に過度に依存しない体質への転換
- ・各ステークホルダー（国、NII、JST、ファンドエージェンシー、学協会、大学・研究機関、図書館）が協同し、継続的な議論の場を持つこと

【所感】

今回の研修のメインは、合計10時間以上にわたるグループ討議における他大学図書館員との意見交換であった。どこのグループでも共通して「図書館に面白さが足りない」との声が上がっていたが、私の参加するグループではその原因として、教員や学生、学内の他部署との連携ができていないという問題があり、今の図書館員に足りないものは「営業力」ではないかと考えるに至った。最終報告会では、「情報の集積と管理が図書館業務の中心的業務と考えられがちであるが、同時に集めた情報を広く利用者にその魅力を伝える力を鍛えていく必要があり、そのために図書館職員は学内広報担当やキャリアサポート担当などと連携し、教員、学生とも日々情報交換しつつ、顧客獲得のための努力を続けなければならない」と結論付けた。

最後に、この研修に参加する機会を与えてくださった公立大学協会図書館協議会に心より感謝申し上げます。